



ひと、暮らし、みらいのために

宮城労働局

Miyagi Labour Bureau

<https://isite.mhlw.go.jp/miyagi-roudoukyoku/>

Press Release

報道関係者 各位

令和6年11月1日

【照会先】

宮城労働局労働基準部健康安全課

健康安全課長 二木多賀子

主任地方産業安全専門官 熊谷 昭彦

(電話) 022-299-8839

令和6年度「宮城年末年始労働災害防止強化運動」の実施について

宮城労働局（局長 小宅栄作）は、年末年始の労働災害防止などを目的に、関係団体とともに、令和6年度「宮城年末年始労働災害防止強化運動」を実施します。

1 趣旨・目的等

年末年始は、日没時刻の早まりによる視界不良、積雪や凍結などによる作業環境の悪化に加え、心理的にも慌ただしくなる時季であることから、労働災害の防止についても、最も多い事故の型である転倒災害の防止をはじめ、これらの事情を踏まえた取組が必要となります。また、多くの事業場において業務繁忙期となるため、労働時間管理や健康管理への配慮もより一層重要となります。

このため、県内すべての労働者が安全で健康な新年を迎えられるよう、各労働災害防止団体などが実施する労働災害防止運動などとともに本運動を実施するものです。

本運動期間中、当局では、幹部による公開安全衛生パトロールなどを実施するとともに、各労働基準監督署では事業場に対する監督指導などを強化します。

2 実施期間

令和6年12月1日（日）～令和7年1月31日（金）

3 実施事項

資料1 令和6年度「宮城年末年始労働災害防止強化運動」実施要綱のとおり

【参考資料】

資料2 令和5年 主要業種別・月別死傷災害発生状況

資料3 令和5年 転倒災害の状況

資料4 令和6年 労働災害発生状況 令和6年10月8日作成

資料5 労働者の転倒災害(業務中の転倒による重傷)を防止しましょう



令和 6 年度「宮城年末年始労働災害防止強化運動」実施要綱

1 趣旨、目的

年末年始は、日没時間の早まりによる視界不良、積雪や凍結等による作業環境の悪化に加えて、心理的にも慌ただしくなる時季であることから、労働災害の防止についても、最も多い事故の型である転倒災害の防止をはじめ、これらの事情を踏まえた取組が必要となる。また、多くの事業場において業務繁忙期となるため、労働時間管理や健康管理への配慮も一層重要となる。

このようなことから、県内すべての労働者が安全で健康にこの時期を過ごすことができるよう、県内の各労働災害防止団体等が実施する労働災害防止運動等とともに全県下で展開するものである。

2 実施期間

令和 6 年 12 月 1 日（日）から令和 7 年 1 月 31 日（金）まで

3 主唱者

宮城労働局、各労働基準監督署

4 協賛者

中央労働災害防止協会東北安全衛生サービスセンター、建設業労働災害防止協会宮城県支部、陸上貨物運送事業労働災害防止協会宮城県支部、港湾貨物運送事業労働災害防止協会宮城県支部、林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部、公益社団法人宮城労働基準協会

5 実施者

各事業場

6 実施事項

(1) 主唱者及び協賛者が実施する事項

- ア 資料等の作成、配付や各種広報媒体を利用した本運動の周知、啓発
- イ 発注機関や各団体に対する本運動の積極的展開のための協力要請
- ウ 安全衛生パトロール
- エ 各事業場に対する指導・援助

(2) 実施者が実施する事項

- ア 「SafeworK 向上宣言」※を活用するなどした事業主及び労働者等による安全衛生方針の表明

- イ 安全衛生活動の点検、評価、改善及び新たな安全衛生計画等の作成
- ウ 事業主等による安全衛生パトロール
- エ 作業内容の変更等に伴う安全衛生教育
- オ 作業場、設備、保護具、通路、標識や表示等の一斉点検
- カ 作業面や通路の凍結等に伴う転倒災害防止対策の確認
- キ 大掃除等に伴う4S（整理、整頓、清掃、清潔）活動
- ク 年末年始の作業開始時における安全確認
- ケ 労働時間の適正管理と過重労働の防止
- コ 長時間労働を行った労働者に対する医師の面接指導等

※宮城労働局及び県内の労働災害防止団体等が運営する労働災害防止や健康で安全に働くことができる職場環境づくりなどに向けた事業主等の意思を企業内外に表明する取組。

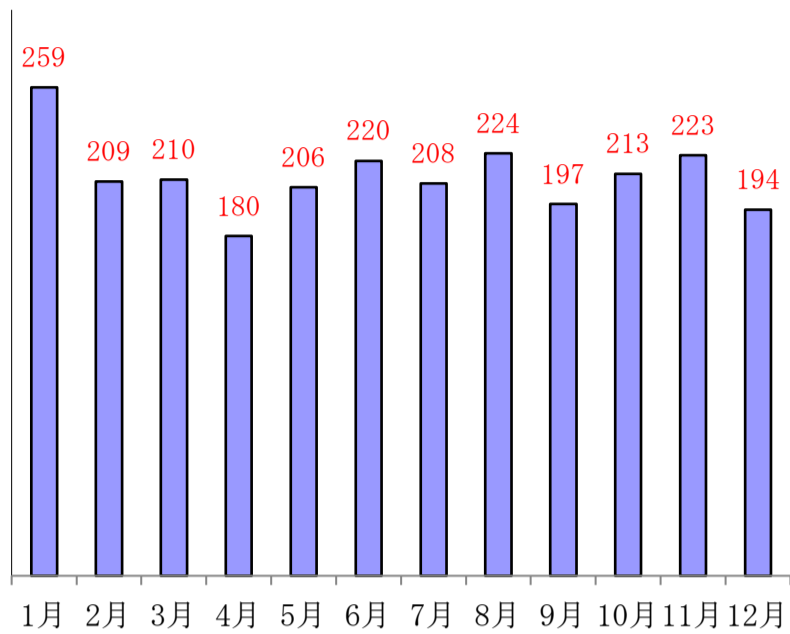


令和5年主要業種別・月別死傷災害発生状況

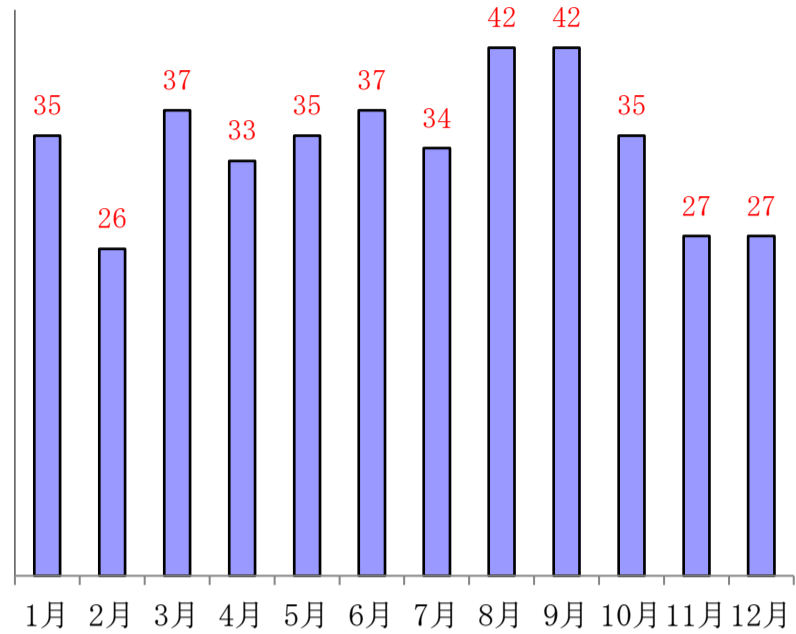
(新型コロナウイルス感染症を除く)

資料 2

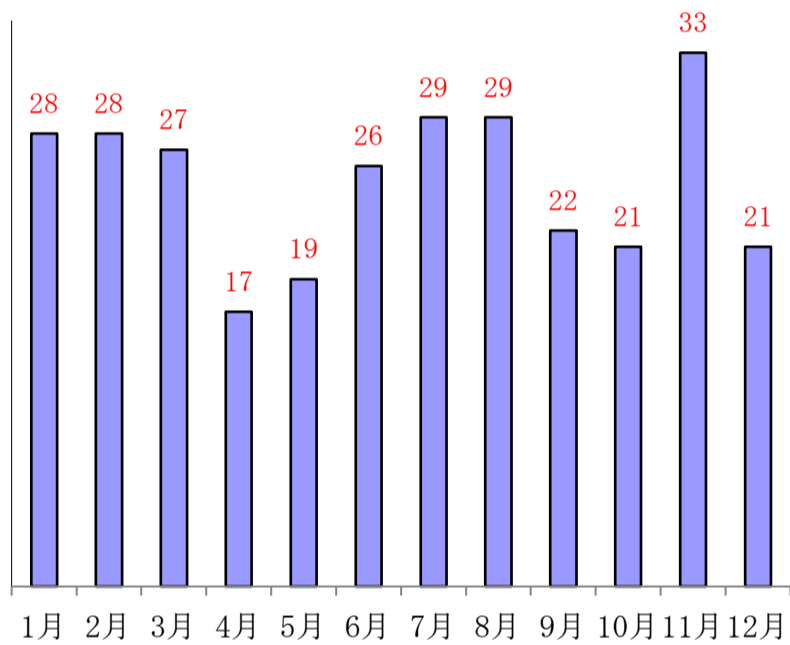
(1) 全産業 (2,543人)



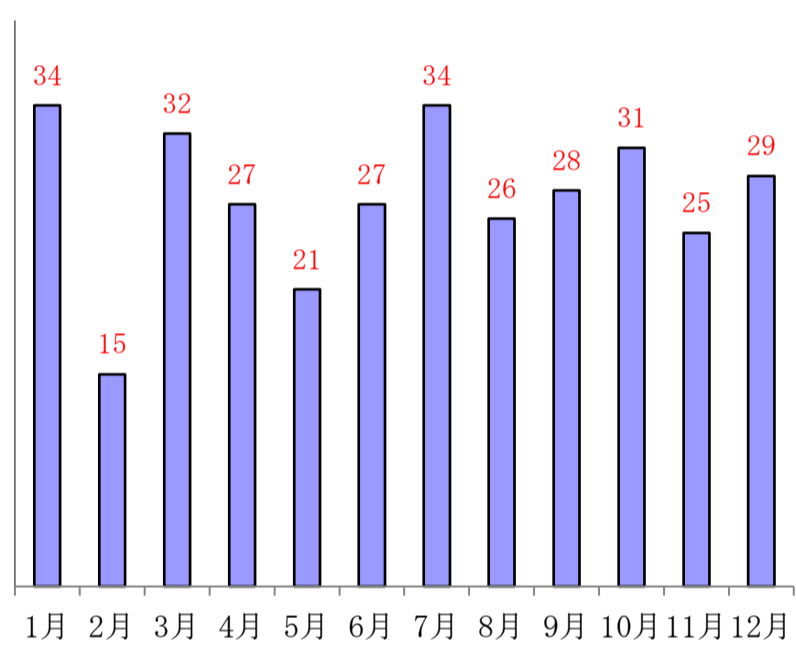
(2) 製造業 (410人)



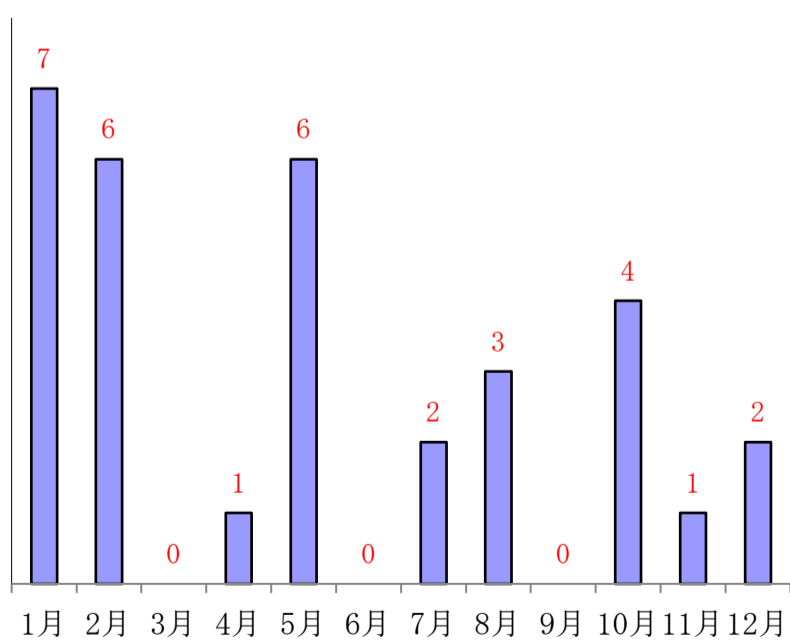
(3) 建設業 (300人)



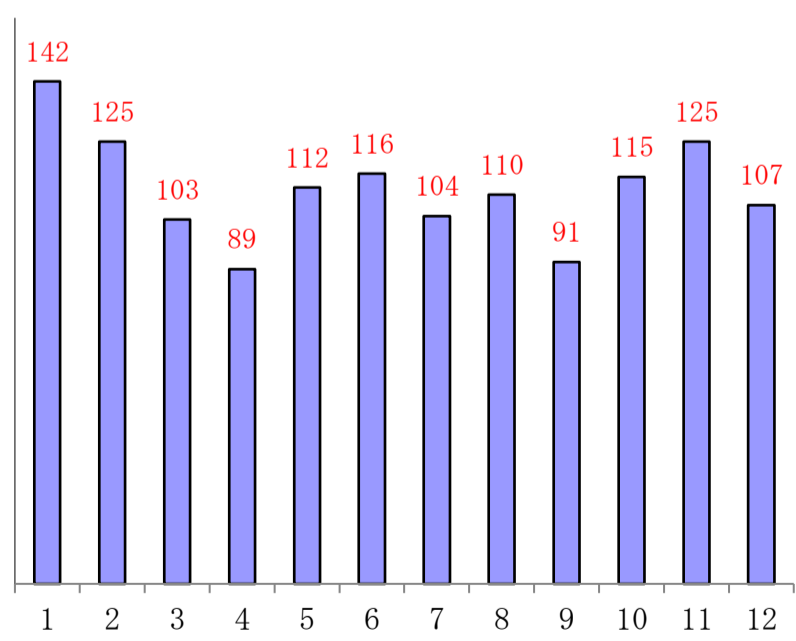
(4) 陸上貨物運送事業 (329人)



(5) 林業 (32人)

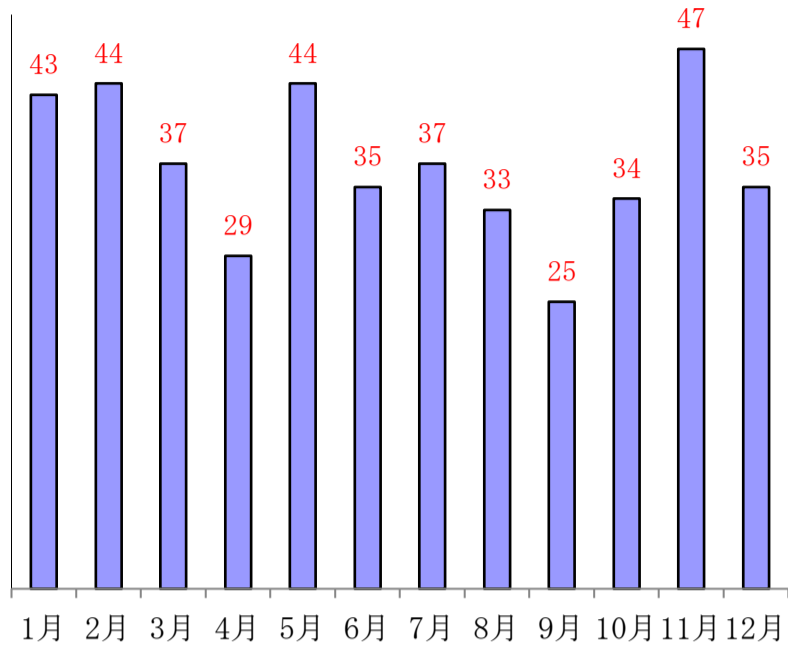


(6) 第三次産業 (1,339人)

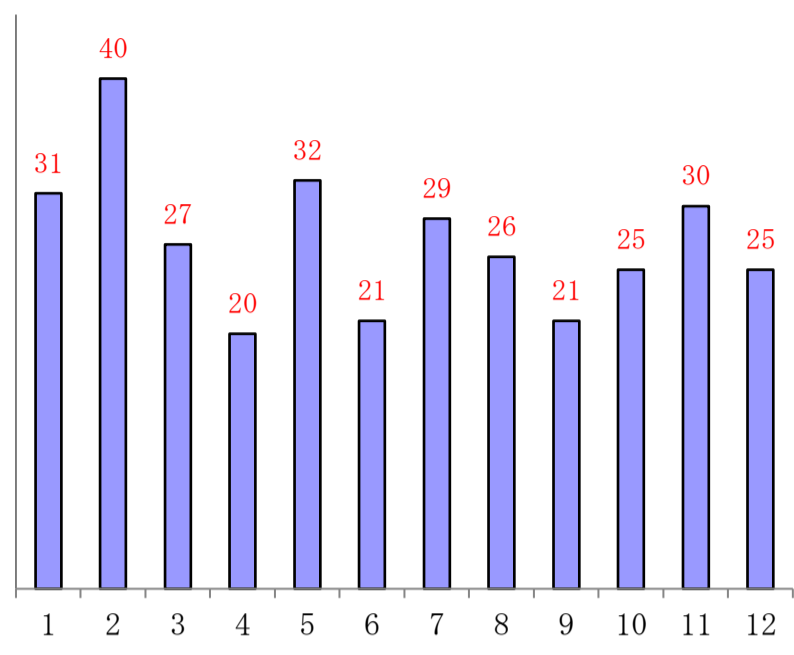


令和5年主要業種別・月別死傷災害発生状況

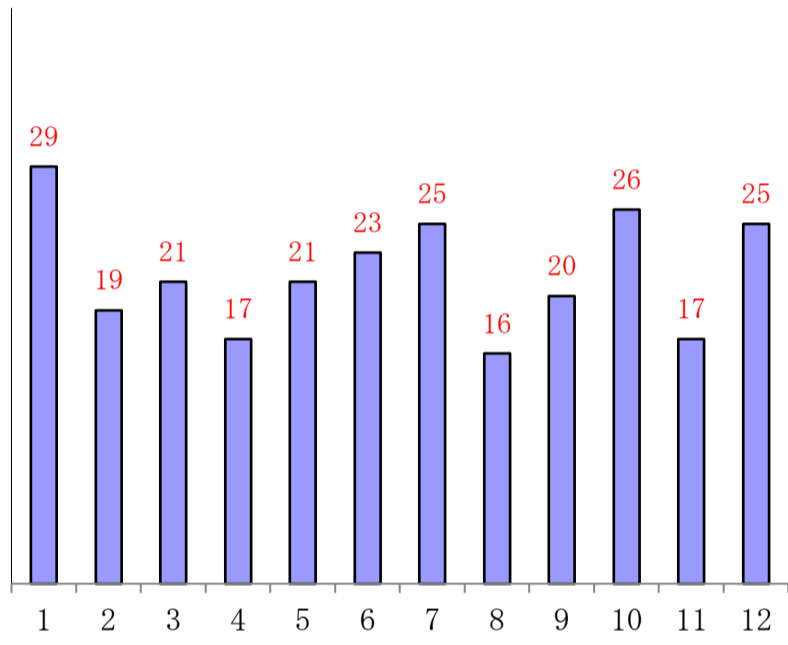
(7) 商業 (443人)



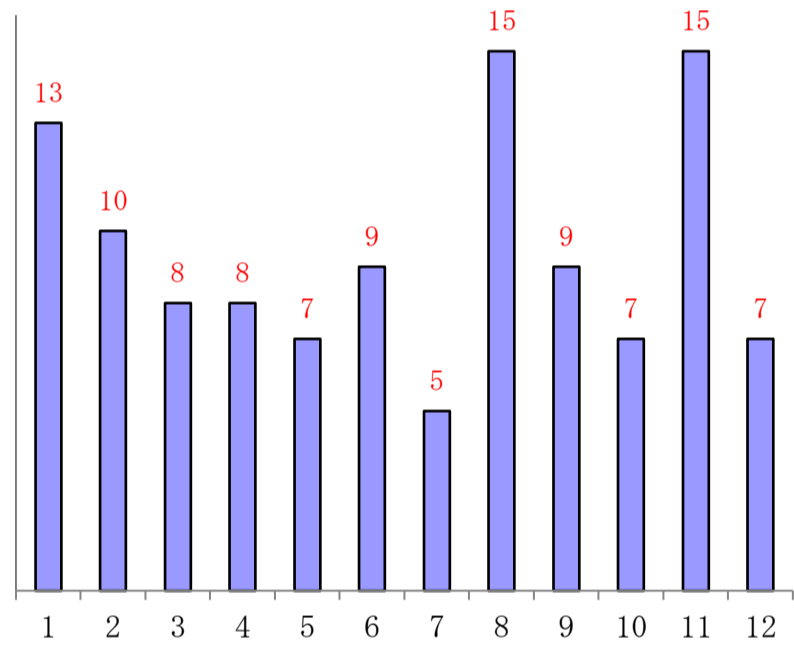
(8) 小売業 (327人)



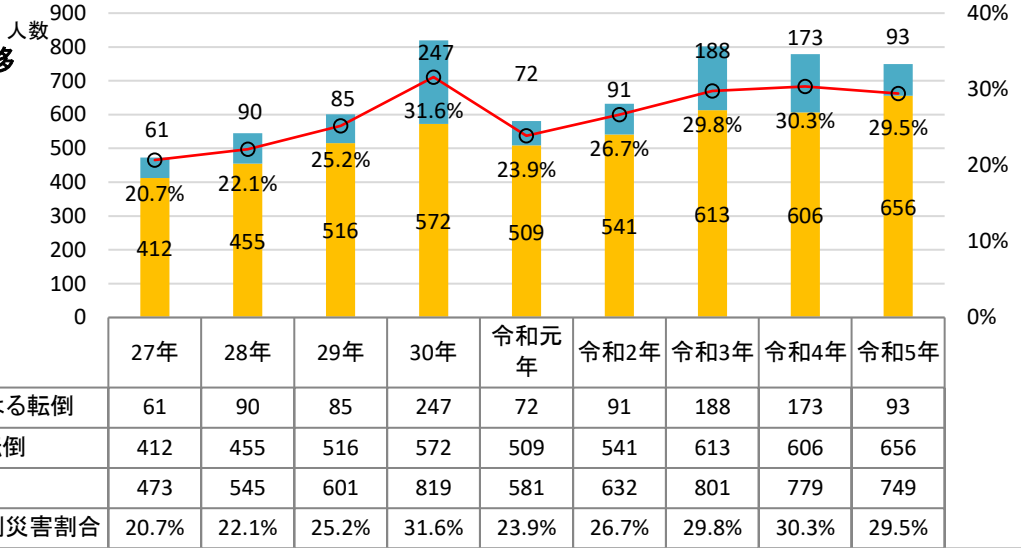
(9) 社会福祉施設 (259人)



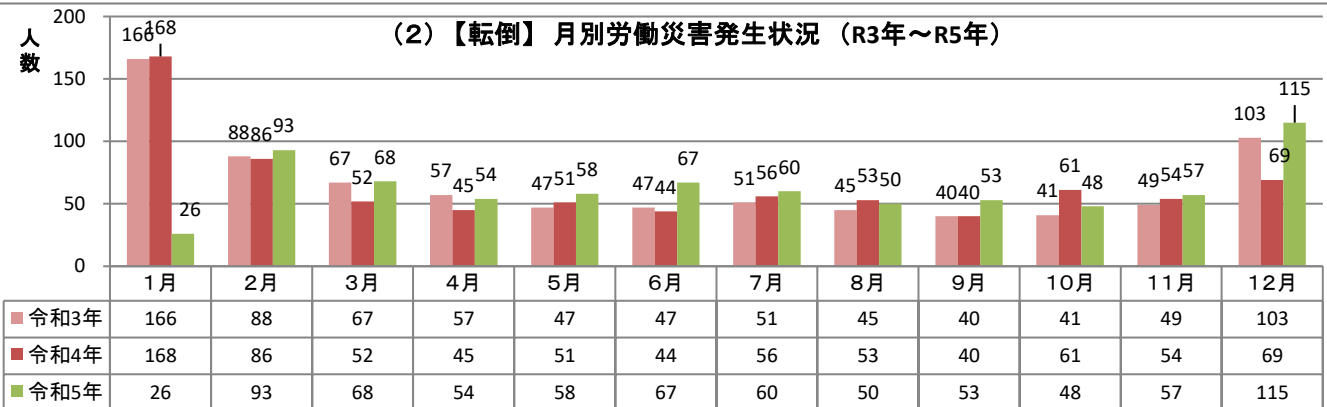
(10) 飲食店 (113人)



(1) 転倒災害・年別推移 (H26年～R4年)

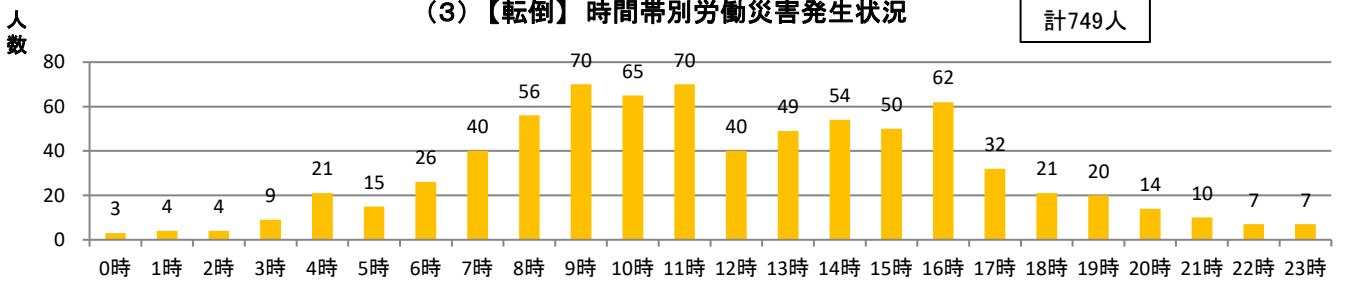


(2) 【転倒】月別労働災害発生状況 (R3年～R5年)

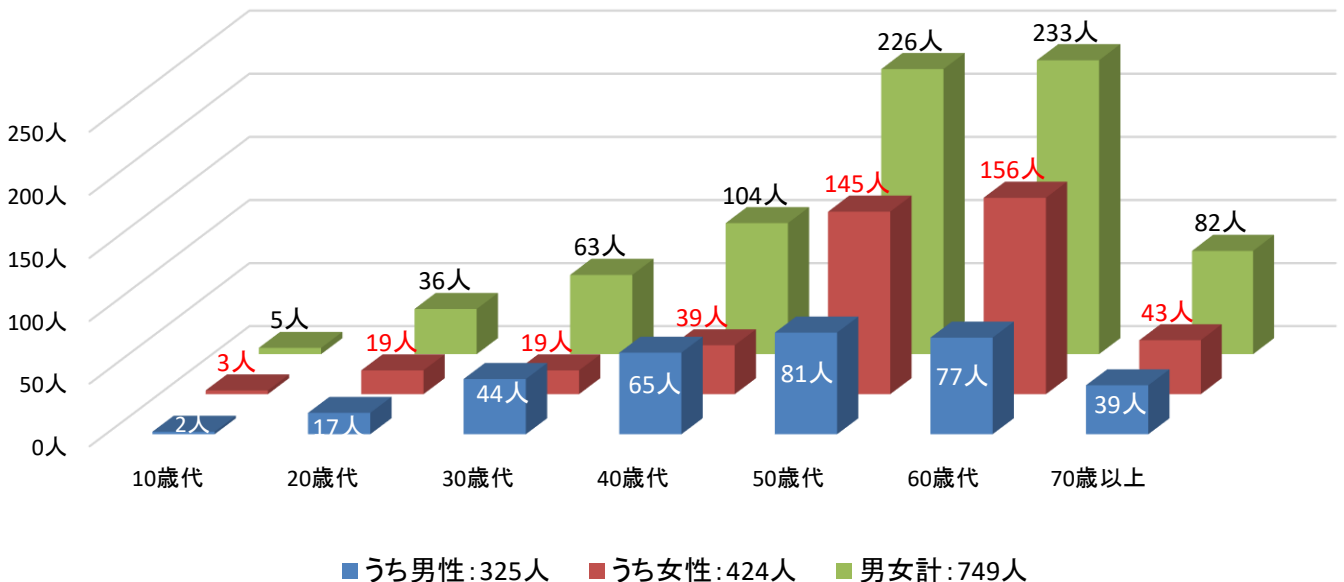


(3) 【転倒】時間帯別労働災害発生状況

計749人

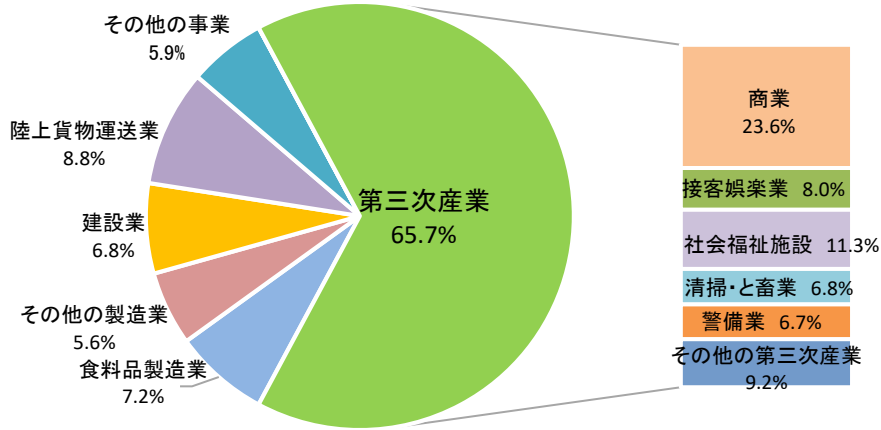


(4) 【転倒】年齢別・男女別

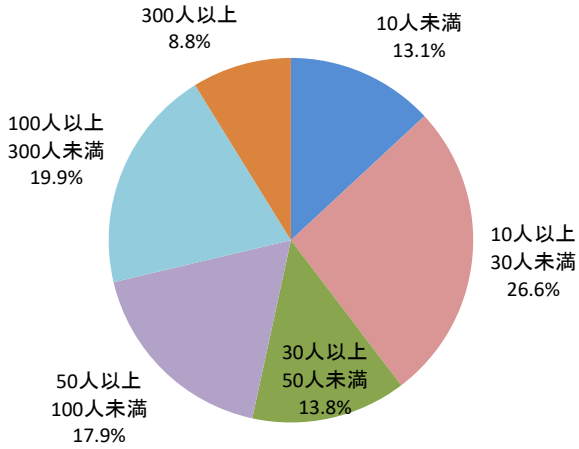


(5) 主要業種別転倒災害件数

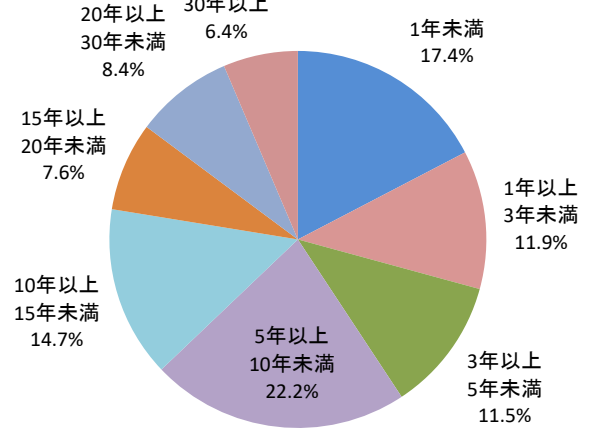
計749人



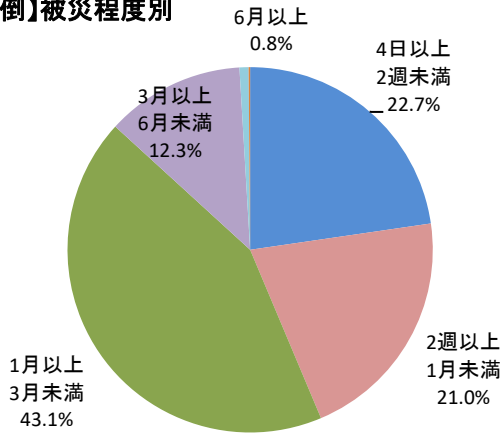
(6) 【転倒】事業場規模別



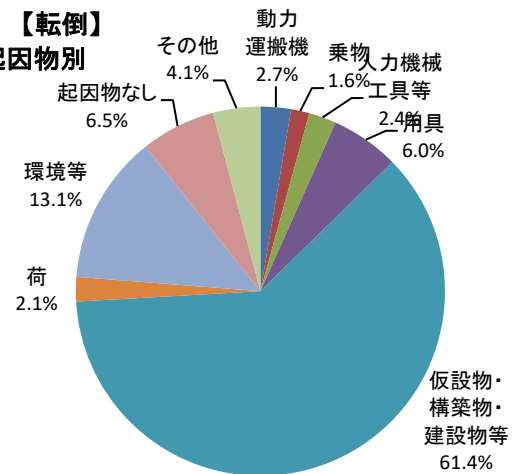
(7) 【転倒】経験年数別



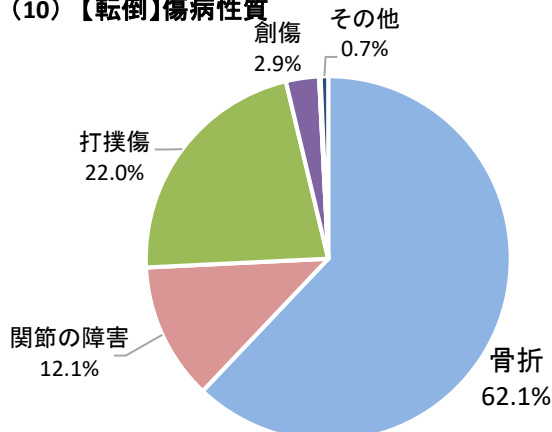
(8) 【転倒】被災程度別



(9) 【転倒】起因物別



(10) 【転倒】傷病性質



令和6年労働災害発生状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

資料 4

令和6年10月8日 作成

宮城労働局

業種別	令和3年全期		令和4年全期		令和5年全期		令和5年 1月～9月		令和6年 1月～9月		前年同月増減			
	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	増減数	増減率	増減数	増減率
全産業	2691	14	2567	15	2543	19	1685	14	1583	9	-102	-6.1%	-5	-35.7%
製造業	485	1	440	4	410	4	281	3	298		17	6.0%	-3	-100.0%
食料品製造業	213	1	203		211		141		129		-12	-8.5%		
水産食料品製造業	86	1	65		73		49		41		-8	-16.3%		
その他	127		138		138		92		88		-4	-4.3%		
繊維工業、衣服その他の繊維製品製造	9		9		4		4		6		2	50.0%		
木材・木製品製造業	7		21	2	9	1	4	1	9		5	125.0%	-1	-100.0%
家具・装備品製造業	2		3		1				2		2			
パルプ・紙・紙加工品製造業	8		13		4		3		1		-2	-66.7%		
印刷・製本業	10		2		7		5		8		3	60.0%		
化学工業	22		11		8		3		10		7	233.3%		
窯業土石製品製造業	16		21		18		14		13		-1	-7.1%		
鉄鋼業、非鉄金属製造業	12		9	1	8		6		6					
金属製品製造業	45		30		33	1	23	1	39		16	69.6%	-1	-100.0%
一般機械器具製造業	21		17		18		13		9		-4	-30.8%		
電気機械器具製造業	38		34		28	1	22		18		-4	-18.2%		
輸送用機械等製造業	27		24		17	1	10	1	16		6	60.0%	-1	-100.0%
造船業	7		12		4	1	2	1	6		4	200.0%	-1	-100.0%
その他	20		12		13		8		10		2	25.0%		
電気・ガス・水道業	7		3		6		4		4					
その他の製造業	48		40	1	38		29		28		-1	-3.4%		
鉱業	7	1	8		10	2	9	1	3		-6	-66.7%	-1	-100.0%
土石採取業	6	1	8		9	2	7	1	2		-5	-71.4%	-1	-100.0%
その他	1				1		2		1		-1	-50.0%		
建設業	318	5	309	5	300	4	205	4	187		-18	-8.8%	-4	-100.0%
土木工事業	106	3	102	3	86		60		55		-5	-8.3%		
建築工事業	157	2	153	1	164	2	110	2	97		-13	-11.8%	-2	-100.0%
鉄骨・鉄筋コン造家屋建築工事	50	1	52		48		28		20		-8	-28.6%		
木造家屋建築工事業	67		58		57	1	39	1	24		-15	-38.5%	-1	-100.0%
建築設備工事業	18	1	12		10		7		10		3	42.9%		
その他の建築工事業	22		31	1	49	1	36	1	43		7	19.4%	-1	-100.0%
その他の建設業	55		54	1	50	2	35	2	35				-2	-100.0%
運輸交通業	428	3	363	2	369	1	246	1	234	1	-12	-4.9%		
鉄道・軌道・水運・航空業	8		7		4		2		4		2	100.0%		
道路旅客運送業	47		34		51		35		21	1	-14	-40.0%	1	
道路貨物運送業	372	3	319	2	312	1	209	1	208		-1	-0.5%	-1	-100.0%
その他の運輸交通業	1		3		2				1		1			
貨物取扱業	24	1	23		21	1	12	1	15	1	3	25.0%		
陸上貨物取扱業	16	1	16		17		9	1	13	1	4	44.4%		
港湾運送業	8		7		4	1	3		2		-1	-33.3%		
農業	27		23	1	30		18		16		-2	-11.1%		
林業	33		24		32	1	24	1	33	5	9	37.5%	4	400.0%
畜産・水産業	22		33	1	32		23		19		-4	-17.4%		
商業	490	3	497		443	3	302	2	276		-26	-8.6%	-2	-100.0%
卸売業、小売業	416	3	435		392	2	273	2	252		-21	-7.7%	-2	-100.0%
その他	74		62		51	1	29		24		-5	-17.2%		
金融・広告業	29		23		28		17		10		-7	-41.2%		
映画・演劇業	3		2		2		2		1		-1	-50.0%		
通信業	31		33		25		15		10		-5	-33.3%		
教育・研究業	35		43		41		28		19	1	-9	-32.1%	1	
保健衛生業	328		300		347		209		183		-26	-12.4%		
接客娯楽業	151		181		179	1	114	1	118		4	3.5%	-1	-100.0%
旅館業	26		35		37	1	27	1	22		-5	-18.5%	-1	-100.0%
ゴルフ場	7		13		6		2		8		6	300.0%		
その他	118		133		136		85		88		3	3.5%		
清掃・と畜業	130		154	1	135		97		81		-16	-16.5%		
ビルメンテナンス業	66		81		76		52		41		-11	-21.2%		
廃棄物処理業	50		63	1	47		33		29		-4	-12.1%		
その他	14		10		12		12		11		-1	-8.3%		
官公署	4		3		4		3		1		-2	-66.7%		
その他の事業	146		108	1	135	2	80		79	1	-1	-1.3%	1	
警備業	44		40		52		35		25	1	-10	-28.6%	1	
その他	102		68	1	83	2	45		54		9	20.0%		
陸上貨物運送事業	388	4	335	2	329	1	218	2	221	1	3	1.4%	-1	-50.0%
第三次産業	1347	3	1345	2	1339	6	867	3	778	2	-89	-10.3%	-1	-33.3%
小売業	348	3	358		327	1	228	1	225		-3	-1.3%	-1	-100.0%
飲食店	92		111		113		71		72		1	1.4%		
社会福祉施設	256		232		259		161		152		-9	-5.6%		

1. 死傷件数は令和6年9月末日までに発生した災害について令和6年10月7日までに確認できた労働者死傷病報告（休業4日以上）により計上しています。

2. 死亡件数については、前月末までに把握したもの（速報）により計上しております。

3. 陸上貨物運送事業は、道路貨物運送業と陸上貨物取扱業の合計です。

4. 第三次産業は、商業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、官公署、その他の事業の合計です。

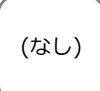
宮城労働局統計情報
(安全衛生・労働災害関係)
詳細はこちらをご覧ください




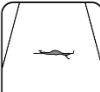
労働者の転倒災害（業務中の転倒による重傷）を防止しましょう

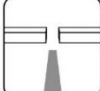
50歳以上を中心に、転倒による骨折等の労働災害が増加し続けています
事業者は労働者の転倒災害防止のための措置を講じなければなりません


「つまずき」等による転倒災害の原因と対策


- 

何もないところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒（27%）
 ▶**転倒や怪我をしにくい身体づくり**のための運動プログラム等の導入（★）
- 

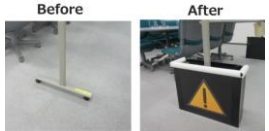
作業場・通路に放置された物につまずいて転倒（16%）
 ▶バックヤード等も含めた**整理、整頓**（物を置く場所の指定）の徹底
- 

通路等の凹凸につまずいて転倒（10%）
 ▶敷地内（特に従業員用通路）の**凹凸、陥没穴等**（ごくわずかなものでも危険）を確認し、**解消**
- 


作業場や通路以外の障害物（車止め等）につまずいて転倒（8%）
 ▶適切な通路の設定
 ▶敷地内駐車場の車止めの「見える化」
- 


作業場や通路の設備、什器、家具に足を引っかけて転倒（8%）
 ▶設備、什器等の角の「見える化」
- 

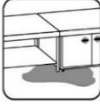
作業場や通路のコードなどにつまずいて転倒（7%）
 ※引き回した労働者が自らつまずくケースも多い
 ▶転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に遵守を徹底させる




「滑り」による転倒災害の原因と対策

- 

凍結した通路等で滑って転倒（25%）
 ▶従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マット等を設置する（★）
- 

作業場や通路にこぼれていた水、洗剤、油等により滑って転倒（19%）
 ▶**水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。**
 （清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してから開放の徹底）
- 

水場（食品加工場等）で滑って転倒（16%）
 ▶滑りにくい履き物の使用（労働安全衛生規則第558条）
 ▶**防滑床材・防滑グレーチング等の導入、**摩耗している場合は再施工（★）
 ▶隣接エリアまで濡れないよう処置
- 

雨で濡れた通路等で滑って転倒（15%）
 ▶雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う

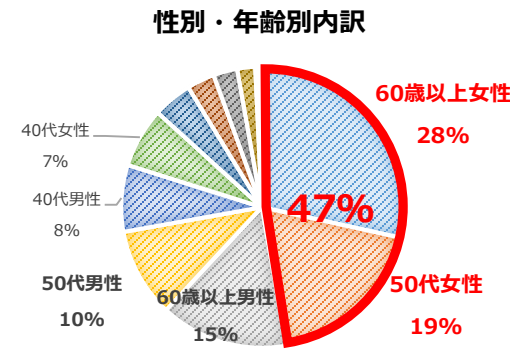
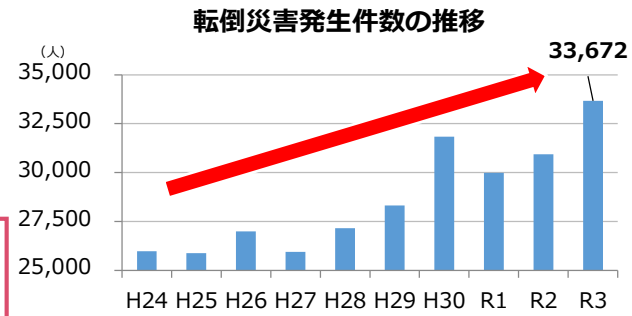


（★）については、高齢労働者の転倒災害防止のため、中小企業事業者は「エイジフレンドリー補助金」（補助率1/2、上限100万円）を利用できます

中小事業者は、無料で安全衛生の専門家のアドバイスが受けられます

転倒災害の発生状況（休業4日以上、令和3年）

資料5



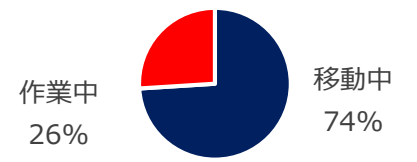
転倒による怪我の態様

- **骨折（約70%）**
- 打撲
- 眼球破裂
- 外傷性気胸 など

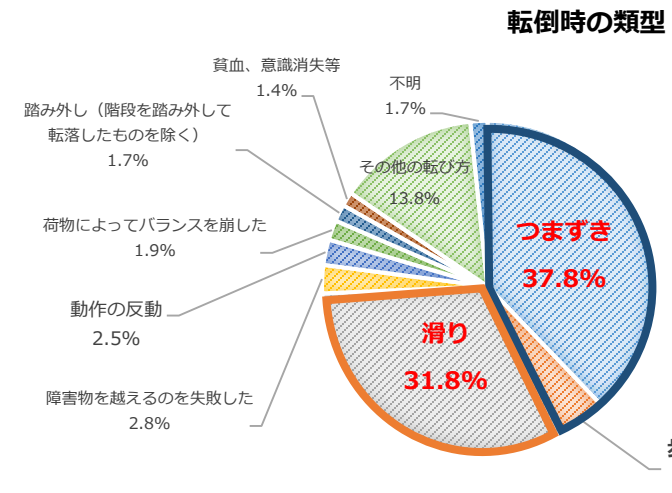
転倒災害による平均休業日数（※労働者死傷病報告による休業見込日数）

47日

転倒したのは・・・



転倒災害が起きているのは移動のときだけではありません



- ＜その他の転び方＞
- 他人とぶつかった・ぶつかった
 - 台車の操作を失敗した
 - 他人、動物等を避けようとしてバランスを崩した
 - 服が引っかった
 - 坂道等でバランスを崩した
 - 立ち上がったときにバランスを崩した
 - 靴紐を踏んだ
 - 風でバランスを崩した

主な原因と対策

転倒リスク・骨折リスク

- 一般に加齢とともに身体機能が低下し、転倒しやすくなります
→「転びの予防 体力チェック」「口コチェック」をご覧ください
- 特に女性は加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します
→対象者に市町村が実施する「骨粗鬆症検診」を受診させましょう
- 現役の方でも、たった一度の転倒で寝たきりになることも
→「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（内閣府ウェブサイト）



転びの予防 体力チェック



口コチェック



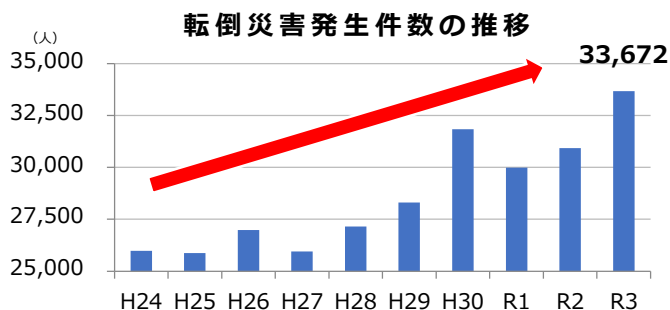
内閣府ウェブサイト

転倒災害（業務中の転倒による重傷）に注意しましょう

50歳以上を中心に、転倒による骨折等の労働災害が増加し続けています。

転倒災害は、被災しないよう労働者自身が注意することも必要です。

転倒災害（業務中の転倒による重傷、休業4日以上）の発生状況（令和3年）



転倒による怪我の態様

・骨折（約70%）

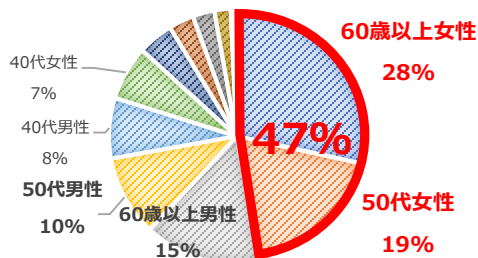
- ・打撲
- ・眼球破裂
- ・外傷性気胸 等

転倒災害による平均休業日数

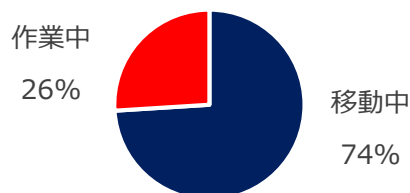
47日

※ 労働者死傷病報告による休業見込日数

性別・年齢別内訳



転倒したのは・・・



転倒災害が起きているのは移動の時だけではありません

主な要因

- 何も無いところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒**
会社から労働者への注意事項を記入しましょう（以下、取り組んでほしいところに記入願います。）
- コード等につまずいて転倒**
- 凍結した通路等で滑って転倒**
- こぼれていた水、洗剤、油等で滑って転倒**
- 作業場・通路に放置された物につまずいて転倒**
- 水場（食品加工場等）で滑って転倒**
- 通路等の凹凸*につまずいて転倒** ※数mm程度のもの
- 雨で濡れた通路等で滑って転倒**
- 作業場や通路以外の障害物(車止め等)につまずいて転倒**
- 設備、什器に足を引っかけて転倒**

加齢等による転倒リスク・骨折リスク

- 一般に加齢とともに身体機能が低下し、転倒しやすくなります → 「ロコチェック」
- 現役の方でも、たった一度の転倒で寝たきりになることも→「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（内閣府ウェブサイト）
- 特に女性は加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します
 →対象者は市町村が実施している「骨粗鬆症健診」を受診しましょう



ロコチェック



内閣府ウェブサイト

